

国生み

まだ国土が海にただよっていた、とおい、とおい神代のことです。高天原に次々と神さまが成り、やがて、伊邪那岐命、伊邪那美命という男と女の神さまがお成りになりました。

二人の神さまは、天の神さまのご命令をうけて、大空にかかる天の浮橋にお立ちになり、貴い玉でかざった矛で広い海のなかをかきまわして引きあげられました。すると、矛の先きからしたたり落ちるしずくがかたまり、おのころ島という小さな島ができました。

二人の神さまは、その島におり立ち、まず天にとどくほど大きな御柱を見立て、結婚式をなさいました。二人はそれぞれ、御柱を左と右からめぐり、出会ったところで「すばらしい方ですね。」と、ほめあつてむすばれ、淡路島を生み、つづいて四国、隠岐島、九州、壱岐島、対馬、佐渡島、本州と、八つの島を先きにお生みになりました。これを大八島国といいます。

さらに、国生みをした二人の神さまは、それから、たくさんのお生みになりました。

